

「福祉の理解」の取り組み

－手話カフェ・夏休み福祉体験・KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展－

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団 世田谷区福祉人材育成・研修センター

並木 裕太郎

(福祉の理解 福祉の魅力発信)

1. 背景と目的

少子高齢社会の進展により生産年齢人口が減少し、福祉人材不足は今後、益々、厳しい状況になる。そのような中で、福祉の仕事も多くの方に知っていただくためには、世代を超えた「福祉の理解」の推進が必要と考える。世田谷区福祉人材育成・研修センターでは、福祉人材の確保・育成・定着支援に総合的に取り組んでいるが、今回は「福祉の理解」の取り組み状況について報告する。

2. 取り組み状況

(1) 夏休み福祉体験

- 1) 令和元年8月に初めて区内20カ所の特養ホームで実施しました。
183名の小学3～6年生の親子が参加し、特養ホームでは小学生にわかりやすく様々な工夫をして迎えてくれました。
- 2) 令和2年度はコロナ禍により、特養ホームの動画、高齢者疑似体験、車いす・ベッド体験を研修センターで開催しました。
対象を中学生・高校生まで拡大し7日間346名が参加しました。
- 3) 令和3年度はコロナ禍の緊急事態宣言により、急遽Zoomでの開催となりました。実際に体験したいとキャンセルもあり7日間125名が参加しました。



【参加者の声】(3年間の主な声)

「大変貴重な体験ができた」「特養ホームに行き、施設や職員の方々も明るくて施設のイメージが変わった」「将来、福祉の人になりたい」「高齢者疑似体験で、高齢者に優しくしようと思った」「車いすは段差に弱く手助けが必要だとわかった。まちで困っている人がいたら手助けしたいと思った」「介護ベッドは利用者にも介護者にもとても親切だと思った」「福祉の仕事を目指したい」など、皆さん、福祉について「我ごと」としてとらえてくれました。

(2) はじめの一步を楽しく学ぶ手話カフェ

令和2年12月から講師にNPO法人世田谷区聴覚障害者協会の方をお迎えし、手話のはじめの一步を楽しく学んでいます。コミュニケーションは『手話』『口話』『筆談』『身振り』そしてなにより、『心』が大切」と表情豊かに講師からあいさつや数字、指文字など教えていただき、終了時には皆さん優しい笑顔に包まれています。

【参加者の声】

「基礎から丁寧に教えて頂き、楽しく学べる」「少しでも人のお役に立てるようになりたい」など、優しい感想をいただいています。



(3) KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展

介護の仕事は、専門知識・技術、経験に基づき、一人ひとりの人生に寄り添い、尊厳を支える大変重要な仕事です。介護の仕事は、尊く、相手を思いやる気持ちが強く、優しくて、クリエイティブ。

日々、取り組んでおられる介護職の皆様への敬意と感謝を表し、介護へのパッション、魅力を自らの言葉で発信する写真展を開催しました。

【参加者の声】

「一時介護職を考えたことがあります、『きつい、大変』という思いで、自分にはできないだろうと思い、踏み出せないままですが、写真展を見てこれからの仕事のひとつに考えたいと思いました」など、82人から感想をいただきました。



3. 考察と今後の課題



研修センター職員

福祉の理解事業を通し、地域の方々に福祉の魅力を知っていただきました。小さい頃から福祉に触れる機会をもうけ、学ぶことにより、福祉のイメージが向上すると考えます。

多くの方の事業への参加に向けさらに周知に取り組み、誰もが福祉について身近に感じ、我がこととしてとらえ、ひいては福祉の仕事の理解が進み優しい地域社会が構築できるよう、引き続き取り組んでまいります。皆さまの多くのご意見をお待ちしております。

<助言者コメント>

諏訪 徹（日本大学文理学部社会福祉学科教授）

福祉人材確保・育成のセンターを設置する区市町村は全国でも極めて珍しく、福祉人材育成・研修センターは世田谷区が誇る資源といえます。その事業のなかでも、福祉の理解・魅力発信は、世田谷区内の福祉事業が長期的に存続していくための基盤をつくる、重要な取り組みです。

紹介された3つの事業のなかで、特に「KAiGO PRiDE in Setagaya 写真展」に感銘を受けました。仕事によって培われた誇りこそが魅力の本質であり、その言葉や姿に触れることが、福祉の仕事を目指したり、福祉の仕事を支えてくれる人を増やし、社会的評価を高めていくことにつながります。是非、世田谷版のKAiGO PRiDEをつくり、誇りをもって人を支える仕事に就いている人々の姿や声をステキな写真に収め、展示を常設化したり、学校等を巡回するなど、多くの区民の方に届けていただきたいと思います。

福祉体験や手話カフェなど、各種の体験や講座の機会を区内に広げていくことも重要な課題であり、ぜひ魅力的なプログラムを充実させてほしいと思います。そのためには、すでに学校の福祉教育にかかわっている当事者やボランティア、福祉施設の職員、学校の教員などと協力し、子どもたちに何を考え、感じてもらいたいのか、福祉を理解するとはどういうことなのかを議論しながらプログラムを検討する場をつくっていくことが重要です。区内各地域でのプログラムの創意工夫がこうした場に集約され、それがまた各地域の実践にフィードバックされていく好循環をつくりだす役割を、区の中核的センターとしての福祉人材育成・研修センターに期待します。